

平成 2 1 年度

食育取組事例

事業実施担当課	川崎市医師会
事業名 (取組名)	乳幼児健康診査事業
主な対象	川崎市医師会員
実施にあたっての経過	上記事業の円滑な遂行のため、食育の年代別アドバイスの再確認が必要です。
事業(取組)の目標	市民の健康の確保のため。
食育推進目標との関連	☒ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☐ 4 その他
実施内容	上記事業を円滑に遂行するため、また関連団体と連携を強化するために、「乳幼児の最近の食育」という演題で、管理栄養士の講演を実施しました。
評価	現代の保護者の「食育についての考え方」を知り研鑽を積むことができ、医師としてのアドバイスのために役立ちました。
今後の課題	食育により、乳幼児には「心の問題」、成人には「生活習慣病」の改善を図るような予防に努め、医療とともに市民の健康の確保の役に立ちたいと考えています。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☒ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ 行政 ☐ その他
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	市民・こども局 保育課
事業名 (取組名)	保育園における地域支援 — 子育て支援講座の開催 個別相談の実施 —
主な対象	在宅の子育て家庭
実施にあたっての経過	子どもを取り巻く社会情勢の変化や、保育所保育指針の改定・告示化に伴い、保育園には「子どもを健やかに育てること」と「子育てをしている親（保護者・家庭）を支援すること」の2つが大きな役割として求められています。子育てにおいて、食に関する不安や心配が多いため、在宅の子育て家庭に対しても、保育を通じて蓄積された知識、経験、技術を活用し、相談・支援をおこなう機会を積極的につくっています。
事業（取組）の目標	保護者の子育てに対する不安感や食事作りの負担感を軽減し、子育て力の向上につなげる子どもの食事をとおして、大人も含めたその家族の食生活の充実を図る。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☐ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☒ 4 その他
実施内容	保育園では、園庭開放や地域の子育て支援センター等をとおして、地域の子育て家庭とのつながりの機会を持ち、子育て支援講座の開催、個別相談を実施しています。 保育園栄養士研究部会第1グループでは、平成20年4月から平成21年12月までの期間に、子育て支援講座を延べ47回実施し、講座の受講者数は522組の親子、また、個別相談は260件に上りました。 6ヵ月から1歳6ヵ月頃までの子どもをもつ保護者が参加者全体の約8割を占めており、「授乳や離乳食」や「1～2歳頃の食事」について聞いてみたいとの要望が多くありました。実際に保育園で使用している離乳食献立表をもとに、子どもの発達に合わせたワンポイントアドバイスを配布し、写真や出来上がりの実物を見せながら離乳食が手軽に作れることを伝え、疑問や相談に応じてきました。また、子どもの食事だけでなく、子どもの食事をとおして家族の食事の充実も図れるよう、基本となる家族の献立を示しながら、大人の食事から取り分けて作る離乳食レシピを作成し、配布しました。
評価	あらかじめテーマや対象年齢を設定している場合は対象者の満足度が高かったものの、受講者についての情報が乏しくテーマを設定しにくい場合や子どもの年齢が幅広い場合には、一部の受講者には講座内容を身近に受け止めてもらえないこともありました。実践記録を取る一方、受講者にアンケートを実施し、講座の内容を実際に活かすことができそうか、今後聞いてみたいテーマなどを把握し、その後の講座の計画に反映させてきました。1回だけの取組ではなく、回数を重ねることによって、個別相談の件数も増え、保育園には栄養士がいて相談にのってくれるという認知度が高まってきたことを実感できました。保育園や子育て支援センターの存在を知ってもらい、リピーターが増えることで、課題や成果がより具体化していくものと思われます。
今後の課題	保育園や子育て支援センターに足を運ぶことのできない子育て家庭への支援と、他の関係団体と連携を図り、課題を共有しながら連携を図っていくことが、今後の課題と思われます。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ その他
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	(社)神奈川県栄養士会川崎支部
事業名 (取組名)	親子クッキング教室(食育)
主な対象	土橋小学校と近隣小学校の親子(低学年対象、高学年対象)
実施にあたっての経過	NP0法人全国中高連川崎市地域学校施設管理協会が管理されている土橋小学校の施設を休日等に有効活用し、地域への食育推進活動を連携して行うことで、地域貢献する目的でNP0と(社)神奈川県栄養士会川崎支部が平成19年度より連携協力し、計画実施してきた。
事業(取組)の目標	・食育(バランスのよい食事、朝ごはんの大切さなど)の講義を親子で受ける。 ・低学年向けでは子どものできる料理を親は見守りながら調理実習を行うことで、子どもの成長を確認し、「愛情を持って見守る」ことが子育てでは大切なことだと、認識を新たにしてもらう。 ・高学年向けではみんなで協力することの難しさや大切さを知り、完成した時の達成感を体験すること。 ・親は子どもたちの成長振りや力を見ることで、今後の子育てに生かして欲しい。 ※食育講義や調理実習で得たことを各家庭に持ち帰り、家族そろって食事と健康について話し合ったり、考えたりして楽しい家族、そして、楽しい地域づくりをして欲しいと考えています。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☐ 4 その他
実施内容	(低学年向け 7月28日29日) ・食育講義は「好き嫌いをしないで食べましょう」について指導する。 ・調理実習は「学校給食の人気メニューを作ってみよう」(夏野菜カレー、きゅうりの中華づけ、みかんのムース)を子どもたちが初めての体験をしながら調理する。 (高学年向け 12月19日)・食育講義は「楽しい会食や手作りパーティーの工夫」について指導する。(家族や友達や様々な集まりで「おもてなしの心」で会食などを工夫すること。) ・調理実習は「みんなで楽しい手作りの工夫を」(デコレーションケーキ寿司、お吸い物、とりウイングスティックのオレンジソース煮、デザート(うさぎりんご、かわいいうちデザート))を子ども同士で相談し工夫して飾りつけ作り上げた。 ※どちらも、親子で一緒に楽しく自らの健康を考える機会となり、家族そろって健康づくりを進めていけるよう計画した。夏休みや土曜日の実施で父親の参加もあった。
評価	平成19年度から継続して実施していることもあり、地域に定着してきたと思われます。参加申し込みも多く、今では、最初から夏休みは1日でなく、2日間を計画して実施するほどになりました。 また、今年度は冬12月の土曜日に初めて、高学年向けに実施し、デコレーションケーキ寿司はグループごとに飾りつけを工夫した思いなどについてプレゼンをしてもらい、コンクールをしました。親子ともに大変盛り上がり、楽しい会食になりました。家庭に持ち帰り、「作ってみたい」「家族(お父さん)に食べさせてあげたい」など話していました。 ※参加者の親子は食事と健康について考え、家族の健康づくりを進めて行く機会になったと考えている。
今後の課題	平成19年度から主に低学年向けに実施してきましたが、参加者からのアンケートでは、低学年だけでなく高学年や中学生向けに実施して欲しいとの声が多く出ているので、来年度からは地域の方々の希望に添えるよう考えていきたい。食育講義の内容についても充実させていきたい。 広く住民全体への食育も進めていくことを考える。
連携団体	連携団体の ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 分類 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ 行政 ☐ その他 NP0法人全国中高連川崎市地域学校施設管理協会
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	中原区役所 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	市民活動のつどい～なかはらっぱ祭～ 「おやこ料理教室・食材釣りゲーム・展示」
主な対象	中原区民
実施にあたっての経過	地域の交流を図るため、区内で活動する市民活動団体が日頃の活動成果を発表する「なかはらっぱ祭」を行う。
事業(取組)の目標	・地産地消の奨励 ・食事バランスガイドの普及啓発 ・食生活改善推進員のPR
食育推進目標との関連	■ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ■ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ■ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ■ 4 その他
実施内容	食生活改善推進員は地元の農家が作った野菜を使ったおやこ料理教室、食材カードを使い食事のバランスを考える食材釣りゲーム、活動報告・活動PRの展示コーナーを実施する。 【おやこ料理教室】 1 講話「食育のはなし」 2 実習「オムライス・コンソメ野菜スープ・トマトと豆腐のサラダ・ヨーグルトかん」 【食材釣りゲーム】 料理カードにクリップをつけて棒の先で釣り上げ、食事バランスガイドに当てはめる。 【展示】 1 ポスター掲示： 食事バランスガイドポスターの掲示 2 活動報告： 日頃の活動内容を掲示
評価	おやこ料理教室には10組30名の小学生とその保護者が参加し、調理実習を通して地元でとれる食材を学び、食の大切さを考える機会となりました。食材釣りゲームの参加者は300名程で、そのうち約100名に食事バランスガイドを使用してバランスのとれた食事について説明しました。参加者からは日ごろの食生活を見直すよい機会になったと好評でした。
今後の課題	望ましい食習慣の確立、知識の習得や信頼関係のある親子関係を築いていくためには、地域ぐるみで家庭における食育推進が必要です。親子が食に対する意識・関心を高めるために調理実習は有意義です。また食事バランスガイド等を通して参加者へ正しい情報提供を続けていくことが重要です。今後も地域や関係団体等と連携して継続的に取組を行っていく必要があると思います。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☐ その他
食育推進項目との関連	■ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ■ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ■ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	幸区役所 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	男性シニアの食と健康講座 事業
主な対象	料理初心者の男性（おおむね55歳以上）
実施にあたっての経過	平成20年度幸区提案型協働推進事業に応募し選考され実施、21年度も継続実施を応募し実施しました。
事業（取組）の目標	家庭で過ごす機会が増えると考えられる団塊の世代の男性を対象に、食事づくりの基本のマスターを支援することで、健康づくりと食の自立を図り、セカンドステージへの橋渡しとします。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☐ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☒ 4 その他
実施内容	①健康づくり、介護予防のための食生活についての学習会と調理実習を行いました。（日程：平成21年8月、9月、10月、11月、平成22年2月の全5回） ②男性シニアが主体となり、公募で集めた参加者に料理の基本と料理の楽しさを伝え、健康づくりについて共に学びました。（日程：平成21年12月、平成22年3月の全2回）
評価	参加者に食の自立に対する意欲が芽生え、事前に料理レシピを見て予習したり、調理実習で作ったものを家族や友人に作ってあげたりする姿が見られました。
今後の課題	今後は地域での食を通した健康づくりボランティア活動を行えるグループとなるよう支援していきたいと考えています。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ その他 食生活改善推進員連絡協議会
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	教育委員会事務局 健康教育課
事業名 (取組名)	学校における食育の推進
主な対象	学校における食育の推進
実施にあたっての経過	各学校において「食に関する指導」を学校給食や特別活動、家庭科等の各教科の時間に行っていましたが、国の「食育基本法」を始め、県や市各々の「食育推進計画」を踏まえ、文部科学省が示す「食育の目標」に沿った学校における食育を推進しています。
事業(取組)の目標	子どもたちが、食に関する正しい知識と食習慣が身につけられるよう、学校給食や各教科等の時間において、学年に応じた食に関する指導を学校教育全体の中で計画的に行います。また、学校、家庭、地域が連携を図りながら、学校における食育を推進します。
食育推進目標との関連	☒ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	・学校における食育の推進を図るために、各学校において、①指導体制の充実 ②子どもへの指導内容の充実 ③学校給食の充実 について取り組みました。 また、食に関する年間指導計画を作成し、学校教育全体で計画的に取り組んだ学校も多くあります。 ・今年度は、「学校における食育推進検討会議」「学校における食育推進検討会議作業部会」を設置し、「学校における食育指導プラン」(小学校向け)の策定に取り組みました。
評価	学校における食育推進の充実を図るためには、校内における食育指導体制の整備(食育推進組織や食育推進担当者の設置)、「食に関する指導」の年間指導計画の作成が必要であり、それらの課題解決のひとつとして、「学校における食育指導プラン」(小学校向け)の策定があります。今後、この指導プランを完成することにより、全ての学校における食育推進が図られると考えます。
今後の課題	全ての学校において食育の推進が図られるような手立てが必要。(例えば、食育推進のためのネットワークづくり等) また、「学校における食育指導プラン」の策定において、中学校、高等学校、特別支援学校についても取り組みます。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ その他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供
その他の食育関連事業(取組)	

事業実施担当課	味の素株式会社 川崎事業所
事業名 (取組名)	味覚教室
主な対象	小学生
実施にあたっての経過	社会からの食品製造業に対しての食育の期待が高まっているため、弊社の強みである「だし」「うま味」と日本の食文化を伝える事を目的に味覚教室を立ち上げました。
事業(取組)の目標	子供たちに「だし・うま味の大切さ」、「おいしく食べることの意義」を基本メッセージとして伝えていく
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	「味覚教室」は味の素グループの社員が講師となって学校へ伺い、講演や体験を通じて「おいしさ」や「味を感じる仕組み」、和食を支える「だし」「うま味」について楽しく学んでいただく食育活動プログラムです。
評価	2009年度実績：川崎市内8校、23授業開催 全国では172校、293授業開催
今後の課題	2008年度味覚教室実施校からのリピートが無く、2009年度は新規校での開催。なぜ、次年度申込みが無かったか調査し、内容の充実を図る。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ 行政 ☐ その他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	宮前区役所 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	神奈川県立川崎北高校における食育授業
主な対象	神奈川県立川崎北高校 1 学年9クラス全生徒 (278名)
実施にあたっての経過	平成19年度に宮前区健康づくり推進会議で実施した宮前区小中学校の朝食実態調査の結果を知った川崎北高校の先生が自校において食育授業を行うことを希望したことにより本事業が始まりました。高校、地域の栄養士の団体、地域教育会議、食生活改善推進員、宮前区役所保健福祉センター等が協働し事業を実施しました。
事業(取組)の目標	・生徒一人ひとりが、食に関する知識と食を選択する能力を養い、健全な食生活を実践していけるよう援助します。 ・高校、地域の栄養士の団体、地域教育会議、食生活改善推進員、宮前区役所保健福祉センターが連携して高校生への食育授業を実施し、食育の推進を図ります。
食育推進目標との関連	■ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ■ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) □ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) □ 4 その他
実施内容	実施日 平成21年10月5日(月) 5・6校時 授業のすすめ方 総合学習の時間に各クラス毎に栄養士や食生活改善推進員が入って一斉に食育授業を実施しました。 1 「食生活アンケート」の実施 食育授業に先立ち、10月1日に対象の生徒全員に食生活や日常生活に関するアンケートを行い、自分の生活全般の振り返りを行いました。 2 グループワーク アンケート結果を踏まえ、4～6人毎のグループで「君たちにとって理想の食とは」をテーマに討議を行いました。理想の食を実現させるための条件なども出し合い、討議内容を模造紙にまとめました。 3 グループワークの発表 討議内容をまとめた模造紙を用い、各グループ毎に「君たちにとって理想の食とは」をテーマに討議した内容を発表しました。 4 栄養士による講義 各グループの発表に対しての講評を含め、健全な食生活についての講義を行いました。 5 食生活改善推進員の料理紹介 生徒が自分で作れるメニューを紹介し、生徒たちがその料理を試食しました。 
評価	・食育授業修了直後の生徒たちへのアンケートでは、食生活を改善したいと考えている生徒は80.5%と高い割合でした。特に実践していきたいこととしては「バランスのよい食事」が34%、「一日3食食べる」14%、「朝食をとる」11%がベスト3にあがり、食育授業の効果がみられました。 ・地域に根ざした学校づくりをめざしている学校の先生方にも地域の団体が連携して行った授業が大変好評で、次年度も食育授業に取組みたいと意欲的でした。 ・各団体がそれぞれの役割をしっかりと果たしながらお互いに連携して、順調に授業を進めることができました。今回の食育授業に携わった各団体の方は、これまで関わりをあまりもてなかった高校生へ食育を広めることができたことを高く評価していました。
今後の課題	・今後も川崎北高校での食育授業が継続できるよう働きかけていきたいと思います。 ・生徒たちにさらに広い視野で食を考えてもらうために食物生産や流通関係の団体とも連携して取組んでいきたいと思います。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☐ 企業 ☒ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ その他 神奈川県立川崎北高校・栄養士みやまえ応援団・宮前区地域教育会議 宮前地区食生活改善推進員協議会・宮前区役所保健福祉センター

事業実施担当課	宮前区役所 地域保健福祉課
事業名 (取 組 名)	各種料理教室
主 な 対 象	市民（対象別：子ども・男性・スポーツ少年等）
実施にあたっての経過	家庭で、調理技術の伝達がされにくくなっている、高齢世帯において、男性の一人暮らしによって食事に不自由がある、生活習慣病の増加等の食生活における課題を日々の活動により感じていたことから、各種対象別やテーマを絞った料理講習会を開催することとなりました。
事業（取組）の目標	それぞれの対象者が、調理体験をすることによって、調理技術の習得や向上、生活習慣病予防のための料理の工夫等習得し、より健全な食生活を送るとともに楽しんで生活を送ることができるよう実施しています。
食育推進目標との関連	☒ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☐ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☐ 4 その他
実施内容	対象者別の料理講習会を実施しています。 ①おやこの食育教室・子どもと楽しく食育活動：幼稚園、保育園及び小学生とその保護者30組を対象に、食育に理解を深めるために、「食育で身につく5つの力」の講話と子供も調理に参加ができる内容の調理実習をしています。 ②スポーツ少年と食育：地域でサッカーや野球等のスポーツ活動に参加している子どもたち及び応援に来ている保護者を対象に、練習中の休憩時間等に食育の大切さについて講話をしています。 ③男性のための料理教室：毎回20～30名の男性を対象に、男性が一人でも調理できるよう、基本的な調理技術の習得を目指した料理教室を実施しています。 ④高齢者のための低栄養予防教室：食欲や食事を作る意欲が低下しがちな高齢者を対象に、食べる意欲を向上させ、元気で長生きできるよう高齢者でも食べやすく、簡単に調理ができる内容の調理実習を実施しています。 ⑤よい食生活をすすめるためのグループ講習会：成人を対象とした生活習慣病予防の料理教室で特に、乳製品を調理に入れて骨粗鬆症を予防する工夫についての料理講習会を実施しています。 ⑥うす味習慣の定着化活動：「うす味でおいしく食べよう」をテーマに、調理実習を行い、減塩調理のコツや工夫をアドバイスしています。
評価	目的を絞った講習会を実施することで、対象者に合った内容を実施することができます。そのため、参加者からはとても満足度の高い内容を実施することができます。
今後の課題	参加者からは「継続的にこういった機会があるとよい」という感想が聞かれるが、一部継続している事業もあり、全ての事業において継続に関わることはマンパワー不足により難しいです。また、対象に限られるため、より多くの人への働きかけが出来る方法の検討が必要です。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☐ 企業 ☒ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☒ 福祉関連施設・団体 ☒ 保育園 ☒ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ 行政 ☐ その他
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☒ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	日本チェーンストア協会関東支部
事業名 (取組名)	日本チェーンストア協会の食育への取組について
主な対象	消費者(地域のお客様)
実施にあたっての経過	食を通じて「生きる力」を育む「食育基本法」が平成17年7月15日に施行され、法律の中で、食品事業者等の責務として、自主的かつ積極的に食育の推進に自ら努めるとともに、国又は地方自治体を実施する食育に関する施策その他食育に関する活動に協力するように努めるものとしてされている。そのため、協会加盟各社はそれぞれ食育の普及に向けて、積極的に活動を行っております。
事業(取組)の目標	様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することが出来る人間を育てる食育を推進することが、協会加入会員(社)の社会的貢献とビジネスチャンスの拡大にもつながるものと考え食育の推進に取組んでいます。
食育推進目標との関連	☒ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	・食事バランスガイド啓発ツールの作成・配布 ◎ポスター 3万5400部(17年度1万3500部、18年度1万4500部、19年度5800部、21年度1600部) ◎リーフレット 320万部(17年度119万部、18年度150万部、19年度36万部、15万部) ◎カード 215万部(17年度97万部、18年度107万部、19年度11万部、21年度2千部) ・会員社に取り組みメニュー案を提示し、各社の実情に応じ、可能な範囲内の取り組みを依頼する。 ◎食事バランスガイド関係(啓発ポスターの掲示、啓発リーフレットの配布、チラシへの食事バランスガイド(コマ)の刷り込み、弁当・惣菜等への食事バランスガイド(コマ)やカロリー、栄養成分の表示) ◎地場農水産物コーナーの設置 ◎体験学習(親子農産物収穫体験ツアー、スーパーでの体験学習) ◎メニュー提案(調理実演コーナーでのバランスのよい食事メニューの提案、POP等を活用したおいしい食べ方の提案) ・19年11月から農林水産省の「めざましごはんキャンペーン」に参加ポスター、テレビCM素材の複製・配布(21年度はポスター3万3200枚、DVD1926枚)
評価	平成19年9月に実施した「食育推進及び食事バランスガイドへの取り組み事例に関するアンケート調査」によると、食品取扱会員企業の95%(回答企業43社中41社)が食育に取り組んでいます。 (取り組み内容例) ○地場農水産物コーナーの設置 95%(41社中39社) ○旬の表示 95%(41社中39社) ○子ども対象のスーパー体験学習63%(41社中26社) ○調理実演・試食コーナーでのバランス献立の紹介27%(41社中11社) ○ホームページを活用したバランスのよい食事メニューの提案39%(41社中16社)
今後の課題	各社の食育への取り組みについては、お客様からも好評を得ている。 (直接売上げの増加には結びついていないが)食に携わる企業としての社会的責任として取組を推進していきたい。
連携団体	連携団体の ☒ 学 校 ☒ 企 業 ☒ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 分類 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☐ 行政 ☒ その他 ----- 管理栄養士による栄養相談等。
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☒ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	川崎区役所 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	小田子ども文化センターでのおやつ講習会
主な対象	小田子ども文化センターを利用する未就学児27名と保護者25名、ボランティア研修職員5名合計57名
実施にあたっての経過	小田子ども文化センター館長より、乳幼児の母向けのおやつの栄養講話の依頼がありました。簡単に家でも作れるおやつを紹介し、手作りの良さやおやつの正しい与え方を知ってもらうことを目的に、講習会を企画しました。 手作りおやつは食生活改善推進員の協力により作成しました。
事業(取組)の目標	・おいしい手作りおやつが身近な素材で簡単に作れることを知る ・普段のおやつの与え方、量の見直しとなる。
食育推進目標との関連	■ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ■ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) □ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) □ 4 その他
実施内容	①小田子ども文化センター講堂にて栄養講話 (食事バランスガイドを使った今日の朝食チェック、1～2歳児の食事量、望ましいおやつのととり方、ジュースの糖分、早ね早起き等) ②食生活改善推進員がおやつ3種を盛り付け、配布 『にんじんケーキ、じゃがいものチーズ焼き、煮干の青海苔かけ』
評価	手作りおやつは親子でとてもよく食べていて好評でした。電子レンジで簡単に作れる、など手軽でもおいしくできることがよかったようでした。
今後の課題	来年度は実施回数・場所を増やし、就学前の子どもと保護者への食育をより広く普及していきます。
連携団体	連携団体の分類 □ 学 校 □ 企 業 □ 保健医療専門家・関係団体 □ 地域団体 ■ 福祉関連施設・団体 □ 保育園 □ 幼稚園 □ 農業関係者 □ その他 ----- 小田子ども文化センター
食育推進項目との関連	■ I 家庭における食育の推進 □ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ■ III 地域における食生活改善のための取組の推進 □ IV 食育推進運動の推進 □ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 □ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 □ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	社団法人川崎市歯科医師会
事業名 (取組名)	お口の健康フェア2009
主な対象	一般市民
実施にあたっての経過	本事業は、歯の衛生週間(6月4日～10日)事業の一環として、(社)川崎市歯科医師会と川崎市の共催のもと実施され今回で29回目を数える。平成19年に日本歯科医師会、日本歯科医学会、日本学校歯科医会、日本歯科衛生士会が共同で食育推進宣言を行っており、お口の健康のひとつとして食育関係のコーナーを参加団体のご協力により設けることとなった。
事業(取組)の目標	「食べ方」を通して豊かな人間性を育み、生涯健康な生活を送ることを目指す。具体的には、小児期・学齢期は、五感を育てる咀嚼習慣の育成、成人期は、生活習慣病の予防、高齢期は、口腔機能向上と誤嚥窒息の予防を目指している。ライフステージ別にそれぞれの「食べ方」を市民の方々へ周知していく。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	各種コンクール表彰式 ・歯っぴい家族コンクール ・高齢者よい歯のコンクール ・歯っぴースマイルコンテスト フッ化物応用指導口臭測定ブラッシング指導お口の健康相談食育に関する発表展示 ・野菜をはかろう ・食べ物カードつりゲーム ・野菜ツリー展示 ・食生活・栄養相談 ・食育エプロンシアター、元気パネルシアター 歯科技工物の展示 お名前入り入れ歯の作り方 腔がんについてお口の健康に関する商品の展示・配布 歯・口の健康に関する図画ポスター展示
評価	昨年度を3,000名程上まわる15,885名の来場者数を記録した。また、イベント名を大きく表示した掲示物を増加したことにより、昨年以上に通行人にもイベントの存在を知らしめたと考えられる。 内容については、表彰式において手話通訳の導入、歯科相談コーナーにはプライバシー保護のためパネル設置など改善を施した。また、従来行ってきた内容に加え、社団法人神奈川県栄養士会川崎支部、川崎市食生活改善推進協議会の2団体の参加により、食育面でのアピールも行った。以上のように多角的なイベントを展開したことにより、市民の方々の口腔衛生観念の向上、健康増進に寄与できたと考えられる。
今後の課題	今回は、食育の中でも、食物の栄養面からのアプローチであったので、それに加えて食べ方の説明・指導ができるような新たなコーナーの設置を検討している。
連携団体	連携団体の ☒ 学校 ☒ 企業 ☒ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 分類 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ 行政 ☐ その他 川崎市川崎市教育委員会川崎市歯科技工士会・新東京歯科衛生士学校・(社)神奈川県栄養士会川崎支部、川崎市食生活改善推進協議会・グラクソミスクライン(株)・パナソニックデンタル(株)・ヨシダ(株)・三宝製薬(株)・ビーブランド・メディコデンタル(株)
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	川崎市PTA連絡協議会
事業名 (取組名)	食育推進コンテスト・広報紙による食育特集・HPによる広報
主な対象	市立小・中・高・特別支援学校PTA会員
実施にあたっての経過	日本PTA全国研究大会の報告では、朝食の摂取率の高さの割りに内容が不十分な食事が多いなど、食事に対する意識の低さが目立っています。食事の内容や生活習慣に子ども達の体力・学力が左右される原因があることを、保護者に啓発することを行っています。
事業(取組)の目標	子ども達に十分な食事をとってもらえるように、食事内容その効果を普及啓発する。
食育推進目標との関連	■ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ■ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ■ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ■ 4 その他
実施内容	広報紙159号・160号で学校栄養研究会、東洋大学小澤治夫教授に協力していただき、川崎市の子どもたちの朝食現状報告や取組、発育発達学から見た生活習慣改善、バランスのとりのしやすいレシピ紹介などを掲載しました。 食育推進コンテストは、「我が家のお弁当自慢」と題し、保護者、教職員、児童生徒から122作品の応募があり、審査表彰を行います。HPでは、コンテストの結果とともに、市PTA協会からの食育に対する提案を明治製菓に協力してもらい、掲載します。
評価	食育推進コンテストは、児童生徒の参加があり、その内容として家庭科の授業や総合的な学習で研究した結果をコンテストに出品できる利点があります。
今後の課題	広報紙は情報発信としての役割のため評価は難しいが、全会員に向けて同じ内容で伝えることが出来ると思います。食育コンテストは児童生徒の発表の場としての役割を考えつつ会員の参加を増やせるように行っていきたいと思っています。
連携団体	連携団体の ■ 学 校 ■ 企 業 □ 保健医療専門家・関係団体 □ 地域団体 □ 福祉関連施設・団体 分類 □ 保育園 □ 幼稚園 ■ 農業関係者 □ 行政 ■ その他 (財)川崎市体育協会、(財)川崎市学校給食会、JAセレナ川崎、明治製菓、学校栄養研究会
食育推進項目との関連	■ I 家庭における食育の推進 ■ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 □ III 地域における食生活改善のための取組の推進 □ IV 食育推進運動の推進 ■ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 □ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 □ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	神奈川・食育をすすめる会
事業名 (取組名)	店舗の売場からの食育情報の発信
主な対象	会員小売企業（コープかながわ、相鉄ローゼン、富士シティオ）の店舗にご来店のお客様
実施にあたっての経過	県民の食生活に一番近いところで食品を扱う事業者として、「食育基本法」で提起している食育課題を積極的に受け止め、県民運動として「神奈川県民の食育」を推進する社会的責任を果たしていく立場から「神奈川・食育をすすめる会」を発足させました。
事業（取組）の目標	①食の提供者として社会的責任を果たす。 ②「食の提供の場」を通して「家庭」に食育運動を実践的に広げる。 ③「食品関連事業者」、「消費者」、「官」、「学」、一緒になって食育運動を積み上げる。 ④食の提供を通じて、事業と食育活動が一体的に進む状態をつくる。という4項目の目標を掲げて取組を進めています。
食育推進目標との関連	■ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ■ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ■ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☐ 4 その他
実施内容	当会の2009年度の取組 ・売店責任者（店長）の食育勉強会の開催 ・「たべる、たいせつ つくる、たいせつ」フェスティバル、「かながわ食育フェスタ」に協力出展 ・食育月間のポスター・のぼりを作成 ・会員企業とのタイアップ企画（かながわ親子ふれあいクッキングスクール、おうちでご飯を応援します！キャンペーンなど） ・「緑をたっぷり召し上げ野菜料理コンクール」など、行政や食生活改善推進員と共同食育企画を実施
評価	会としては、会員小売企業の店舗の中から、13店舗を「食育強化店」に指定し、ご来店のお客様に向けて定期的な食育情報の発信に努めています。そのうち、川崎市ではコープ井田三舞店、フジ上野川店の2店舗が強化店にあたりますので、ぜひとも両店を活用する形で貴市からの情報発信にも協力できるようにしていく必要があると考えます。
今後の課題	今回、後援させて戴いております「かわさき食卓コンクール」をきっかけに貴市との協力関係を一層深め、市民に向けた食育活動を推進していくことが大切と考えます。また、川崎市食生活改善推進員による野菜摂取の呼びかけなどにも店舗の売場を提供する形で協力できますので、是非ご検討いただきたいと思います。
連携団体	連携団体の ☐ 学 校 ■ 企業 ■ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 分類 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ■ 行政 ☐ その他 ----- 神奈川県環境農政部および農水省神奈川農政事務所にアドバイザーとしてご参加戴いております。
食育推進項目との関連	■ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ■ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ■ IV 食育推進運動の推進 ■ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ■ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	市民・こども局 青少年育成課
事業名 (取組名)	平成22年川崎市「成人の日を祝うつどい」の パンフレットによる食育の普及啓発
主な対象	新成人（パンフレット配布対象者）
実施にあたっての経過	平成22年川崎市「成人の日を祝うつどい」のパンフレットへの広告希望調査を実施したところ、健康福祉局保健医療部健康増進課より食育についての広告掲載希望があったため。
事業（取組）の目標	平成22年川崎市「成人の日を祝うつどい」の新成人（約13,000人）に対し、食育・食事バランスガイドの広告が掲載されたパンフレットを配布し、普及啓発すること。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☐ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☐ 4 その他
実施内容	平成22年川崎市「成人の日を祝うつどい」の対象者である新成人（約13,000人）に対し、健康福祉局保健医療部健康増進課より提出された食育の広告（132mm×110mm）を掲載したパンフレットを、案内状とともに配布しました。 
評価	パンフレットを配布することで、新成人に対し、食育を普及啓発できました。
今後の課題	特になし。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ その他
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	川崎市幼稚園協会（学校法人 明成学園 平間幼稚園）
事業名 （取組名）	米粒から作る米作り（教育ファームの取組）
主な対象	年長児（5歳）
実施にあたっての経過	前年度の米作りで失敗したため、専門家の指導を仰ぎ、一から（米粒から）の米作りを体験しました。
事業（取組）の目標	秋の収穫を実現させ、米作りの大変さ、お米一粒一粒の大切さを知ること、また正月飾りとしての家に持ち帰ることを目標にしました。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☐ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☒ 4 その他
実施内容	籾殻の皮をむいて、水の入った容器に米粒を入れ、発芽させ、土に植え替え、苗へと成長しました。苗床に苗を植え、田んぼの変化を観察し、微生物の発生やすずめなどの外敵から守るためのネットなど、育てていく課程で起きた問題対策をしながら収穫を楽しみにしてきました。
評価	米粒から芽が出たことで、米粒も生きていることを知り、全てのものに命があることを改めて実感できました。バケツではなく田んぼで育てたことで、お米の成長や日々の変化を気にし、友達同士で話をしている姿が見られ、興味・関心が高まりました。
今後の課題	順調に育っていたが、自然と気候の変化や外敵からの影響もあり、稲穂はつきましたが、実らず収穫することができませんでした。来年度は、今年の問題対策などを含め、秋の収穫まで実現させたいと思います。
連携団体	連携団体の ■ 学 校 ■ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ■ 農業関係者 ☐ 行政 ■ その他 （財）川崎市体育協会、（財）川崎市学校給食会、J A セレサ川崎、明治製菓、学校栄養研究会
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	セレサ川崎農業協同組合
事業名 (取組名)	農業体験学習 (教育ファームの取組)
主な対象	小学生 (学年単位の学習授業の一環)
実施にあたっての経過	近年、食の簡便化や不規則の食生活等で「食」の大切さが薄らいでいる中で、平成17年7月に国の食育基本法の施行により県や市の基本計画を受け、JAセレサ川崎食農教育プラン(平成20年10月策定)に基づき食農教育活動を展開し始めました。
事業(取組)の目標	一連の農業体験を通じ農業の楽しさ、収穫の喜びと「食」「農」の大切さを多くの児童に理解と関心を持ってもらい、これからの「食文化」や「農業」の大切さを伝える責任を果たし、家庭・学校・地域などの分野においても健全な食生活と健康づくりに取り組むことにしております。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☒ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	平成21年度は29の農業体験学習等の事業を展開し、主だったところでは、市立はるひ野小学校の田植えから食するまでの総合体験学習の実施、また企業や行政等などとの連携による体験学習や料理教室等開催による「食文化」の伝承実施を行いました。また、その他に出前授業・補助教材の配布や学校給食用食材の提供を行いました。 学校・幼稚園単位での事業・・・14事業 地域単位での事業・・・7事業 企業・行政等の連携事業・・・8事業 補助教材本の配布・・・市内小学校 118校 12,760冊配布
評価	JAセレサ川崎独自の掲げた目標は概ね達成出来たと思いますが、各事業を実施する中で学校・幼稚園等対象で行う事業は、そのレベルに合った資料や内容で準備を行わないと理解度に差が出てしまうことがありました。
今後の課題	食農教育事業を展開している行政や企業、教育関係、NPOや関連部署等と連携を強化し、市内全域に「食」と「農」と「環境」の重要性を周知できる充実した事業展開を行ってまいります。また、農業本来の姿で行えるよう時季性(月日や曜日)等を検討し、資料や内容等は行政・学校等との連携を密にし、より理解を深められるような内容で行い、地域等での事業はJAの特色を活かし、JA組織との事業を展開することにより「食」や「農」の必要性やあり方を高め実施したいと思っております。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☒ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☒ 保育園 ☒ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☒ 行政 ☐ その他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☒ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	東京ガス株式会社 川崎支店
事業名 (取組名)	食育研修の支援
主な対象	全校の教職員
実施にあたっての経過	平成19年度より、川崎市教育委員会総合教育センターカリキュラムセンターからの依頼により実施しています。
事業(取組)の 目 標	食育を推進する教職員の食、食育に関する知識や技能の向上および最新のガス調理機器の安全性、機能性、利便性を体験し認識いただくことを目標としています。
食育推進目標 との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実 施 内 容	「食育&エコ・クッキング研修会」 実 施 日：平成21年8月18日 場 所：東京ガス キッチンランド川崎 内 容：①最新の食情報のご紹介&エコ・クッキングセミナー ②調理体験・試食 ～旬の食材を使った調理をし、ガス、水、ゴミの量を測量 ③まとめ(結果発表) 参加人数：24名(定員) 注)「エコ・クッキング」は東京ガスの登録商標です。
評 価	先生方からご要望が多かった「食育」に関する講話と「エコ・クッキング」が融合された、効率的な研修会です。教育委員会の担当指導主事の先生方から「充実した盛りだくさんの内容で勉強になった」という評価をいただきました。
今 後 の 課 題	多くの小中学校の教職員の先生方にご体験いただき、食育の知識を広め、エコ・クッキングを実践いただけることを目指しています。
連 携 団 体	連携団体の分類 ☐ 学 校 ☐ 企 業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ 行政 ☐ その他 川崎市教育委員会総合教育センターカリキュラムセンター
食育推進項目 との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	川崎市消費者の会
事業名 (取組名)	料理教室
主な対象	消費者の会 会員
実施にあたっての経過	1996年に「川崎の農業」を取り上げ学習したことをきっかけに、食の安全・安心も含めて減少していく農地の保全を願い、地場農産物を積極的に求め食べていくことで、地元の農業を応援することを会の活動の一環としています。
事業(取組)の目標	地産地消の推奨および実践 地場農産物の種類を知り、生産者より調理法を学びその味を知る。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	ふるさと生活指導士を講師に招き、地場農産物を使った料理・献立の指導を受ける。また、地元の女性農業従事者との交流を図ることで農業事情を知ります。
評価	地場農産物の入手しにくい地域の会員には地場農産物を知る良い機会であり、地元の農業の様子を聞くことでより身近に感じ感心も高まります。
今後の課題	入手しにくい地域の人たちにも地場農産物が求められるように直売所の設置・拡大が望ましいといえます。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☐ 行政 ☐ その他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	経済労働局 農業振興課
事業名 (取組名)	地産地消の推進
主な対象	一般市民及び農業生産者
実施にあたっての経過	新鮮、安全、安心な市内産農産物についての市民ニーズは高いにもかかわらず、購入できる機会が少ない。地産地消の推進により、安定した農業経営及び生産に基づく、安定供給が求められています。
事業(取組)の目標	・消費者が身近に存在するという都市農業の優位性を活かした地産地消を推進することにより、安定した農業経営・生産・供給を図ります。 ・新鮮・安全・安心な市内産農産物を求める市民(消費者)の要望に応え、供給する場又は機会を設けます。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	・市内産農産物「かわさきそだち」を広く市民(消費者)の方に知っていただくため、シンボルマークを描いた幟旗を作成し、農産物直売所に掲出していただくとともに、パンフレット類を作成し、各種イベントにて配布し、PRを行いました。 ・地産地消を推進することによる安定した農業経営及び新鮮・安全・安心な市内産農産物供給に係る支援として、直売団体育成のための支援及び大型農産物直売所「セレサモス」及び市場への出荷奨励を行いました。 ・生産者と消費者との「顔の見える関係」の構築による安全・安心な農産物の供給及び市内産農産物を求める市民ニーズに応えるため、「BUYかわさき」等のイベントに参加し、農産物直売を開催しました。
評価	・市内の農産物の生産・販売は、個々の生産者の置かれた状況により市場出荷や直接販売が行われていますが、共同直売所や学校給食への食材提供など生産者と消費者との「顔の見える関係」を創設する事業を行いました。 ・消費者が身近に存在する都市農業の有利性を生かし、新鮮・安全で市民・消費者が安心して、購入できる農産物の生産支援を行いました。
今後の課題	・農地の少ない川崎区・幸区では、農産物直売所がありませんが、地場農産物に対する市民ニーズは高く、地産地消の流通システムが求められています。 ・生産者と消費者との「顔の見える関係」を創設する事業をより一層促進し、新鮮・安全・安心な農産物を消費者に供給する新たな機会の創設が求められます。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☐ その他 セレサ川崎農業協同組合他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	経済労働局中央卸売市場北部市場
事業名 (取組名)	活性化対策事業（夏休み親子食育講座）
主な対象	宮前区在住の小学校1年生から4年生とその保護者
実施にあたっての経過	産地の大型化に伴う市場間競争の激化、市場外流通の増大、さらには、少子、高齢化による取扱高は減少傾向にあり、生き残りのため様々な層を対象に積極的に情報発信を行い、市場をPRしていく必要がある。このような状況の中、食生活の乱れを受け食育基本法が施行され、市場として健全な食生活の推進のため、食育活動により消費者の生鮮食料品への関心を高めるため事業の実施に至ります。
事業（取組）の目標	市場内見学と場内業者による野菜講座又は魚講座の受講を通じ、小学生とその保護者に市場の役割や市場で扱っている生鮮食料品について学んでもらう。市場への理解を深めてもらうと同時に市場のPRと消費拡大を図ります。
食育推進目標との関連	☒ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☒ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☐ 4 その他
実施内容	小学生が参加しやすい夏休み期間に、親子による北部市場の施設見学と北部市場内の業者に講師を依頼し、1回目を「やさいの日」、2回目を「さかなの日」として、それぞれ「食材の見分け方の講座」を行い、さらに、北部市場の食材を使用し調理法を学びながら料理を作る「食育講座」を併せて実施しました。
評価	夏休み親子食育講座の開催により、子どもたちに食料品への関心を高めてもらうとともに、市場のしくみを理解してもらい、将来の需要増につながりました。
今後の課題	市場間競争は今後さらに激化することが予想され、市場の取扱高は減少傾向にある中、消費拡大を図るため、市民を対象に積極的に情報発信を行い、市場をPRしていく必要がある。そのため今後も活性化対策事業（おやこ食育講座）を継続して実施する必要があります。
連携団体	連携団体の ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 分類 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ その他 教育委員会宮前市民館営生分館
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☒ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	環境局環境調整課
事業名 (取組名)	地球に美味しい『エコクッキング』講座
主な対象	市内小学校PTA
実施にあたっての経過	環境問題の解決には、市民ひとりひとりのライフスタイルを見直していかなければいけません。「食」という毎日の生活に欠かすことのできない身近な場を題材に、買い物から調理、後片付けにいたるまでの一連の流れを通して、環境に配慮したライフスタイルの促進が主婦層を中心に期待できるため実施しました。
事業(取組)の目標	買い物から調理、後片付けにいたる過程において環境に配慮した行動は様々あります。講座をきっかけに自らの行動を省みて、まずはできることから始めてもらう、そして、少しずつ広げていく、長く続けてもらうことが目標です。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	平成21年度は5校のPTAを対象に実施しました。参加人数は、合計102名です。 【実施メニュー】 ①ドライカレーとイタリアンスープ(継続) ②石焼風ビビンバと韓国風スープ(新設)
評価	二つ目のメニューを提供することで選択の幅が増え、過去に受講した団体の申込につながり、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発が行えました。
今後の課題	本講座は小学校PTAを対象としていますが、PTAの年間活動は年度始めに決められてしまうことから、広報の時期が課題です。受講された団体からは好評を得ているので宣伝をしてもらうとともに、次期PTA役員に推薦してもらうことも有効だと考えています。
連携団体	連携団体の分類 ☒ 学校 ☒ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ その他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	高津区役所 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	夏休みわくわくクッキング
主な対象	区在住の小学生低学年前後の子どもと保護者10組 (親子で料理を楽しむことにより、食育について考える機会にする)
実施にあたっての経過	食と農(たちばな地区)を通じた区民の交流を軸に地産地消や農のある風景と暮らしを次世代に継承していくための「たちばな農のあるまちづくり」推進事業の周知と共に区内の新鮮野菜で食育の推進を図ることが協働で実施できそうでした。
事業(取組)の目標	・たちばなの農産物を知ってもらい、地産地消の推進をする。 ・食生活改善推進員と一緒に、実習をととして、食育「5つの力」の推進をする。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☐ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	①お話:地産地消と子どもの食育「5つの力」について ②調理実習:「手作りピザ」「トマトと豆腐のサラダ」「ぷちぷちフルーツポンチ」「コンソメ野菜スープ」 ③試食:感想を出し合う
評価	①感想から ・野菜嫌いの子どもが自分でつくる楽しさを知って、苦手な野菜も食べていた。 ・たくさんの夏野菜が食べられて良かった。 ・親子で一緒に料理ができて楽しかった。 ・子どもの感想では、料理は難しかったが食べると美味しかった、また参加したい。 ②参加者5人から、こういう企画があればまた参加したい。
今後の課題	・参加申込みが募集当日に定員を超え、参加希望者が多く、今後は会場やスタッフ等の検討をして、参加希望者に対応する。 ・農産物は四季で違うので、地場野菜を活用して、年4回実施できるように検討する。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☒ その他 高津区食生活改善推進協議会 ・久末地区生産組合(農業) ・NPO法人 ぐらす・かわさき
食育推進項目との関連	☒ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	多摩区役所 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	食育の秋 in よみうりランド～豆腐づくり体験
主な対象	多摩区在住の小学校3～5年生までの児童と親
実施にあたっての経過	地産地消のイベントとして、よみうりランド、JAセレサ川崎、生産者と多摩区役所の協働による大豆の生育と豆腐づくりを体験するイベントを企画、実施しました。(小学生親子対象) 企画実施にあたって、各団体が集まり会議を行い、それぞれの特徴を生かした取り組みにしました。
事業(取組)の目標	1 小学生親子を対象に、大豆の生育から豆腐ができるまでを学習体験し、食に対する興味をひろげることで、健全な食生活、健康づくりに繋げていきます。 2 食育に取り組む団体が、連携して取り組むことで、多摩区の食育の輪を広げていきます。
食育推進目標との関連	■ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ■ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ■ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ■ 4 その他
実施内容	地産地消のイベントとして、よみうりランド、JAセレサ川崎、生産者との協働による大豆の生育と豆腐づくりを開催しました。(小学生親子対象) 参加者にイベント期間中大豆通信を3通配付し、種まきから、草むしりなど、生育状況などを知らせ、大豆について家族で学んでもらいました。 豆腐づくりイベント当日は、大豆から豆腐を作るまでの工程を講義・実演し、できたおからもホットケーキにして試食しました。 豆乳から豆腐づくりを体験、屋外で枝豆もぎ体験と元豆腐職人の方からの講話、試食、質疑応答などを行いました。
評価	1 小学生親子を対象に、大豆の生育から豆腐ができるまでを体験し、食に対する興味をひろげることで、健全な食生活、健康づくりに繋げていく。大豆通信の送付により、大豆の生育過程から豆腐づくりイベント当日まで親子で学び、食に対する興味、会話がぐんぐん増え、豆腐づくりも、自主的に取り組み、生産者の苦労も伝わり食物を大切に作る気持ちにも繋がっていました。また、大豆通信の大豆キャラクターやよみうりランドのキャラクターを加えたことで、対象年齢が興味を強く持つことができていました。 2 食育に取り組む団体が、連携して取り組み、多摩区の食育の輪を広げていく。いろいろな団体と協力し、特徴を生かしながら活動ができました。
今後の課題	・今回は企画の特性により参加人数に限られ、少人数38名の参加となりましたが、新聞にも取り上げられ広く食育が普及できました。しかし事前に効果的な広報について考慮していなかったため、次回は内容を熟慮し、より幅広い方々に普及啓発できる食育イベントを考えていく必要を感じています。 ・色々な団体と協働で食育を行うことができましたが、今後より多くの団体とも連携の輪を広げ、食育活動を盛んにしていけるように取り組んでいきたいと考えています。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☒ 企業 ☒ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☐ その他 多摩区役所・よみうりランド・セレサ川崎農業協同組合・セレサ女性部・農業生産者・元豆腐生産者・小学校PTA
食育推進項目との関連	■ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ■ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ■ IV 食育推進運動の推進 ■ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ■ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	麻生区役所保健福祉センター 地域保健福祉課
事業名 (取組名)	食育の日と循環型地産地消の取組
主な対象	区民
実施にあたっての経過	麻生区区民会議の環境部会が取組む「生ごみリサイクルと地産地消」のモデル事業として、市民・地域・企業・大学・区役所等が連携した循環型地産地消の取組が実施に至った。その中で、食育の普及・推進を効果的に行なえるよう協力依頼があり、レシピ集や栄養バランスの作成を行なうことになった。
事業(取組)の目標	地元産の食材を使ったランチを区民に提供することにより、地産地消の取組を推進する。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート (朝食を毎日食べる人を増やす) ☒ 2 バランスよく楽しく食べよう (広めよう食事バランスガイド) ☒ 3 食に関する情報発信 (食育リーダーの養成) ☒ 4 その他
実施内容	1. 生ごみのリサイクル レストランあさおから出る「生ごみ」を東京農大に運搬し、リサイクル研究プラントにて肥料「みどりくん」を製造する。 2. 地産地消の推進 農家では、リサイクルされた肥料「みどりくん」を使って野菜を栽培。栽培された野菜は、レストランあさおにてランチメニューとして提供し、地産地消を推進する。 3. 麻生区食生活改善推進員の取組 食生活改善推進員は、地元産の食材を使ったレシピや栄養バランス等を掲載したチラシをレストランあさおにて配布するなど、地域の中で食生活改善を通じた健康づくりを推進する。
評価	毎月19日「食育の日」に実施する事により、食育推進の普及啓発にも役立っている。
今後の課題	タウン紙等の広報により、少しずつであるが周知されるようになった。提供される食数に限りがありせっかく来たが終了してしまった事もあり、チラシに掲載してある作りかたを見て家に帰って作ってみますという区民の方もいらっしゃるため、レストラン側との食数の調整と同時に、チラシ等による情報提供も今後継続して行く必要がある。
連携団体	連携団体の分類 ☐ 学校 ☐ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☒ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☒ 農業関係者 ☒ その他
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☒ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☒ IV 食育推進運動の推進 ☒ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☐ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供

事業実施担当課	経済労働局 消費者行政センター
事業名 (取組名)	くらしのセミナー（出前講座）
主な対象	市内在住、在勤、在学の15人以上のグループ
実施にあたっての経過	身近なくらしの問題を楽しく学んでいただくために、希望のテーマに応じた講師を派遣します。テーマの1分野として食生活を設定しています。
事業（取組）の目標	自立した消費者として、自主的かつ合理的な行動ができるように、食の安全性に関する情報を提供します。
食育推進目標との関連	☐ 1 朝食で元気な1日のスタート（朝食を毎日食べる人を増やす） ☐ 2 バランスよく楽しく食べよう（広めよう食事バランスガイド） ☐ 3 食に関する情報発信（食育リーダーの養成） ☒ 4 その他
実施内容	食生活に関するテーマと開催回数・参加者数（3／2現在） 1 安全ですか？あなたの食卓（食の安全最新情報）・・・2回・53人 2 食と健康・食べることの大切さを考える （食育・食習慣改善・健康食品等）・・・7回・202人 3 かわさきのベジフルライフを楽しもう （野菜ソムリエに聞く旬の野菜の選び方、おいしい食べ方）・・・5回・115人 4 水について知ろう！ （浄水器・ミネラルウォーターなど水について考える）・・・1回・25人
評価	くらしのセミナーは、毎年多くの市民の皆様がご利用になり、大変ためになったとご好評をいただいています。
今後の課題	市民の皆様のご要望を伺いながら、テーマの充実に努めてまいります。
連携団体	連携団体の ☐ 学校 ☒ 企業 ☐ 保健医療専門家・関係団体 ☐ 地域団体 ☐ 福祉関連施設・団体 分類 ☐ 保育園 ☐ 幼稚園 ☐ 農業関係者 ☐ その他 食生活のテーマでは、パナソニック電気株式会社（「水について知ろう！」の講師無料派遣）
食育推進項目との関連	☐ I 家庭における食育の推進 ☐ II 学校・幼稚園・保育園等における食育の推進 ☐ III 地域における食生活改善のための取組の推進 ☐ IV 食育推進運動の推進 ☐ V 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農業の活性化等 ☐ VI 食文化の伝承のための活動への支援と国際交流の推進 ☒ VII 食品の安全性や栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供